



名前：佐藤 諒 (さとう りょう)
 配属先：営農課 営農企画 年齢：23 歳
 出身地：黒石市
 好きな農産物：りんご 座右の銘：一所懸命



■ J A で働いた感想は？

農業の関係の仕事は経験したことのないので大変でしたが、組合員の皆様にお力添えできるとにやりがいを感じました。

■ 仕事をやる上で心掛ける事はありますか。

パソコンでの作業が主となるので書類の打ち込みの際は、入力データが間違っていないかの確認を怠らないようにしています。

■ 休日の過ごし方又は趣味・特技を教えてください。

休日は映画観賞やプラモデル作りを楽しんでいます。

■ 理想の職員像はありますか。

テキパキと書類を作成し、組合員の皆様のお役に立てる職員になりたいです。

第37回青森県「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクール

J A 青森中央会が主催する第37回青森県「ごはん・お米とわたし」作文図画コンクールで平川市立平賀西中学校3年の赤平結子さんが優秀賞を受賞しました。赤平さんおめでとうございます。

● 優秀賞
 ご飯の魔法

(平川市)
 平賀西中学校 3年

赤平結子

私はご飯を食べることが大好きです。中でもお米が一番好きです。小さい頃は嫌いでした。でも、祖父が口癖のように言っていた、「お米を食べると強くて元気な子に育つよ」という、その言葉のおかげで私はお米を食べることが好きになっていきました。家族と食べるご飯はもちろんおいしいですが祖父と二人きりで食べるご飯は格別だったことを今でも覚えています。

小学生の頃、私は毎日のように祖母の家遊びに行っていました。祖母の家に行くときはゲームは持っていかず、外で祖父と草取りをしたり、虫をつかまえたりして遊んでいました。外で遊んだあとは決まって祖父と花だんのすみに座り、畑でとれた野菜と塩おにぎりを食べます。普段はあまりご飯を食べれなかった私も、その時だけはたくさん食べていました。祖父と食べるおにぎりはいつも以上においしく感じられたからです。

ある日、私は祖父へ日頃の感謝をこめて、祖父の好物である、赤飯を作ることにしました。一人では難しかったので祖母と一緒に愛情をこめて一生懸命作りました。思った以上に難しく、失敗してしまっただけもあつたのですが、祖父はおいしそうに食べてくれました。祖父のあの笑顔は今でも鮮明に覚えています。祖父が手作り赤飯を笑顔で食べてくれたのは、これが初めて最後でした。

祖父は持病があり、私が中学校に入って間もなく他界してしまいました。あまりにも悲しく、三日間ほどご飯を食べる気にはなりませんでした。そんな時、祖母は私の気持を察してくれたのか、畑でとれた野菜をつけあわせて塩おにぎりを作ってくれました。私はそれを泣きながら食べました。祖父と外で遊ん

だあとに食べていたことを思い出しながら、すると不思議なことに、祖父がとなりで見守ってくれているような気がしました。

祖父が他界してからは祖母と共にご飯を食べることが少なくなりました。夏休みに遊びに行っても午前中で帰ってしまうことが増えたからです。ある日、久しぶりに祖母とご飯を食べることにになりました。祖母はともうれしそうにしながらご飯を食べていました。そして何回も何回も「やっぱりみんなでご飯のご飯はおいしい」と言いました。その言葉で、私はようやく祖母が一人でご飯を食べていてさびしい気持ちになっていたということに気がつきました。申しわけなかったという気持ちと、今度からは定期的に祖母と一緒にご飯を食べようという思いがこみ上げてきました。

思い返せば、私は姉と喧嘩をしたあとは、必ずご飯の時に仲直りをしていました。姉とくだらないことで喧嘩をし、結局どちらも謝らずに寝てしまった日もありました。でも次の日の朝、ご飯を食べている時に謝ることができのです。私はこれを密かに「ご飯の魔法」と呼んでいました。今では姉と喧嘩をすることはない、一緒に外食をしたり、一緒にご飯を作ったりする仲になりました。姉とこのように仲よくなったのは、ご飯のおかげだと思います。

祖母はよく「どんなに仲が悪くても美味しいご飯と一緒に食べていけば自然と仲良くなるんだよ」と言います。その言葉の通り、ご飯は人と人をつなぐコミュニケーションツールだと思っています。私はこれからもご飯を食べられることに感謝していこうと思います。